

事業名称	ふるさとマップを描く—昭和の記憶を残す—
団体名・代表者	香寺歴史研究会
協働の相手方	企画政策推進室、香呂地区連合自治会

目的	『香寺町史 村の記憶』に書かれた、暮らしの舞台となった村の姿を目に見える形で描くことで、暮らしの移り変わりをより生き生きと理解することができる。ことに村の原風景ともいえる昭和 30 年代の村の姿を目に見える形で残すことは、次の世代の人たちへの地域歴史遺産の継承となり、これからの地域づくりを考える資料ともなる。
内容	1. 各地区でかつての村の姿を回想記や座談会、聞き取りなどで蘇らせる。 2. 分かったことを、地図上に具体的に、分かりやすく記入したふるさとマップを作成する。 3. 作成された全地区のふるさとマップを図書館ギャラリーで公開する。 4. 作成されたマップを『香寺ふるさとマップ集』として発行する。
事業経過	マップ作成説明会を開いて、目的や方法について説明する。先例がなく手探りであったが、ベースマップとなる昭和 30 年代の地形図と航空写真を用意し、昭和の記憶として何を残すか、何を記入するかを検討してもらうことから始めた。各地区では回想記を集めたり、聞き取りをしたりして、しだいに内容が豊かになっていった。こうして分かったことを絵図ふうカラーで表現することで、見やすくなり、解説文も付けられて作品が完成した。11 月末には各地区から提出され、3 月に全地区のマップを展示して完成発表会を開くことができた。さらに、図書館のギャラリーで展示することで、広く町民に披露することができた。作品は『香寺ふるさとマップ集』として刊行し、今後活用されることを期待している。
事業の効果	1. 展示会を開いて、マップで地域の歴史を伝えることの楽しさと意義を広く伝えることができた。 2. 忘れられようとしていたふるさとの原風景を記録にとどめることができた。 3. 『香寺ふるさとマップ集』にまとめることで、後世に残せる資料となった。
今後の展望	今後、高齢者にはこのマップを眺めてかつてを回想して生きる力を取り戻してほしいし、子どもたちにはこのマップを持って村の中を歩いて歴史を感じてもらい、村の過去と未来と一緒に考えていきたい。また、自治会には今後の地域づくりに活かしてもらいたいと願っている。小中学校とは地域調べに活用されふるさと再発見となるよう連携していきたい、と考えている。

【実施団体の事業総括・感想等】

ここ数十年で地域の生業も暮らしもそして景観も大きく変貌した。マップ作成は作成者にとっては懐かしい時代を思い返す楽しい作業でもあったが、一方、これは消え去ったもの、失ったものを考えさせられる機会でもあった。ふるさとマップが我々世代の生きたあかしとなり、後世への遺産ともなればと思っている。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

地域の歴史を次世代に伝えていくにあたり、地図と文章を併せて当時の様子を残すことで、その時代の情景を具体的に思い浮かべさせられるとてもよい資料が作成できているように思う。本資料は、当時を知らない若い世代が読んでも現在との違いを身近なものとして感じられ、村の歴史を具体的に知ることができるものであり、読者の郷土愛を深められるものであるように感じた。今後、地域調べに活用されるよう小中学校と連携していきたいということで、若い世代にも積極的に活用してもらえることを期待したい。